

RETAILER ACADEMY NEWS

Feb 2018 | Bentley Motors Japan

LIMITED EDITION



—— 日本市場限定モデルが登場 ——

フライングスパー V8 S ストラトゥス エディション by マリナー



ベントレー モーターズ ジャパンは、このほど、フライングスパーの特別仕様車「フライングスパー V8 S ストラトゥス エディション by マリナー」を発表しました。日本市場のみで20台限定で販売されます。車両本体価格は23,500,000円（消費税込）で、デリバリーは2018年第1四半期を予定しています。日本市場限定モデルは、2017年に発表したコンチネンタルGT V8 S ムーンクラウド エディションに次いで2台目となります。

「ストラトゥス」とは「層雲」の意味。このモデルでは「層雲」をイメージさせるONYX（ブラック）とGlacier White（ホワイト）の2種類を用意しました。

エクステリアは、21インチダークティント仕上げのアロイホイール、レッドブレーキキャリパーが、一目でフライングスパー V8 Sのハイパフォーマンスを感じさせます。また、マリナーのファインラインとダークティントのユニオンジャックが入り、ベントレーがレースの世界で築いてきた栄光の歴史を彷彿とさせます。

インテリアは、Beluga（ブラック）とPorpoise（グレー）のレザーを専用カラースプリットで配し、エクステリアカラーに合わせたAzure Purple（パープル）もしくはLinen（グレーホワイト）のアクセントカラーを組み合わせています。

さらに、チタンエンリッチカーボンファイバー製のパネルと、ステアリングホイールの0時の位置に配したストライプ装飾が、スポーティなイメージを強調しています。

特別装備

- 1 エクステリアカラー：ONYXまたはGlacier White
- 2 21インチダークティントアロイホイール
- 3 レッドブレーキキャリパー
- 4 ダークティント ユニオンジャック バッジ
- 5 Mulliner ファインライン
- 6 オリジナルカラースプリット（Beluga / Porpoise）＋ Azure Purple or Linen
- 7 ステアリングストライプ
- 8 イルミネーテッド トレッドプレート
- 9 チタンエンリッチカーボンファイバー製パネル





大胆に生まれ変わったサラブレッド・スポーツカー 新型アストンマーティン ヴァンテージ

アストンマーティンは、2017年11月21日に新型ヴァンテージを発表しました。初代と2代目のヴァンテージは、同社の高性能モデルのために用意された名称でしたが、2005年に登場した3代目モデルではエントリーモデルとなるピュアスポーツカーの名称に一変。その流れが今回の4代目にも引き継がれました。

アグレッシブに生まれ変わったスタイリング

以前のアストンマーティンは、どのモデルも同じようなスタイリングであり、差別化が難しい印象がありました。しかし、DB11から新世代のデザイン言語が用いられ、大胆かつ独自性の高いスタイリングに変貌を遂げようとしています。前後の短いオーバーハングと筋肉質なサイドプロファイルは先代譲りで、新型ではフロントの大きなエアインテーク、それにディフューザーを強調したリア周りのデザイン処理により、獐猛な肉食獣のようなアグレッシブな佇まいを見せています。



ボディと一体化したフロントスプリッターとスリムなLEDライトが精悍な印象を高める



ディフューザーと後端が跳ね上がったデッキリッドにより、新鮮な印象を与えるリア周り

同社のデザイン上の特徴であるサイドストレーキ（フロントフェンダーのエア・アウトレット）は、新たにサイドジル（エラ状の窪み）へと進化。デザイン上のアクセントだけでなく、フロントホイールアーチ内のエアを排出し、エアフローをボディサイドへスムーズに流す効果ももたしています。



フロントフェンダーのサイドジル（エラ状の窪み）は、ボディサイドのデザインと一体化された

新たなデザイン言語で一新されたインテリア

同社のインテリアは、これまで流れるようなラインと斜めに傾斜した大きなセンターコンソールが特徴的でした。新型ヴァンテージでは新たなコンセプトが用いられ、エクステリアと同様にダイナミックな造形に一新されています。特にセンターコンソール周りは、トランスミッションのP、R、N、Dをはじめとする走行関係の各スイッチが三角形を形成するように配置されるユニークなもの。またダッシュボード中央にあるエアコンなどのスイッチ類には、クラシカルなロータリースイッチおよびトグルスイッチを採用。最近のモデルには珍しく、スイッチ類が整然と並ぶメカニカルな印象が個性的です。



スイッチやコントロール類はセンターコンソールに集約されている

インテリアはスポーティなアルカンターラ/レザーが標準仕様となり、ラグジュアリーなフルレザーインテリアはオプション装備となります。シートは、Sportとサイドボルスターの張り出しが大きいSport Plusの2種類が用意され、スポーツ志向の高いユーザーにも対応。着座位置も従来より10mm低くなり、よりドライビングに集中できるよう設計されています。

軽量コンパクトなキャラクターを踏襲

同社の次世代プラットフォームをベースにしたボンド接着式のアルミニウム製ストラクチャーは、ヴァンテージのスポーティなキャラクターに合わせて全体の70%が再設計されています。ボディサイズとホイールベースは先代に比べて拡大したものの、全長はDB11に比べて284mm、直接競合するポルシェ 911に比べても34mm短く、依然としてコンパクトなサイズを踏襲。乾燥重量も1530kgに抑えられ、これまで以上に敏捷性の高い走りを可能にしています。

メルセデスAMG製のエンジンを採用

パワーユニットは、同社と提携関係にあるメルセデスAMG製の4.0L V8直噴ツインターボエンジンが搭載されています。このエンジンはメルセデスAMG GT Sと基本的に同一ながら、アストンマーティンが同社にふさわしいフィーリングを生み出すよう独自のチューニングを行い、最高出力 510PS、最大トルク 685Nmを発揮。このスペックは、一足早く同エンジンを搭載したDB11 V8に比べ、最大トルクで10Nm上回っています。出力はトランスアクスルレイアウトのZF製8速ATを介して後輪に伝えられ、最高速度314km/h、0-100km/h加速3.7秒というパフォーマンスを誇ります。



メルセデスAMG製の4.0L V8直噴ツインターボエンジンはボンネット内の低い位置に収まる

同社初のEデフを採用

走行系では、ダイナミック・トルクベクタリングと、同社では初採用となるEデフ（エレクトロニック・リア・ディファレンシャル）の採用が挙げられます。この2つの装備が連携して作動することで車両の挙動がこれまで以上に安定し、コーナリング性能を大幅に高めています。

価格

日本での価格は19,800,000円（税抜）と発表され、世界的なデリバリー開始時期は2018年の第2四半期を予定しています。アストンマーティンのラインアップではピュアスポーツに位置する新型ヴァンテージ。日本市場での拡販を目指す同社にとっては中核モデルとなるだけに、これまでにない積極的な展開が予想されます。

COMPETITORS INFORMATION



一部改良 / ニューモデル メルセデス AMG GT	
発表・発売日	2017年10月26日 受注開始
概要	・ フロントグリルにAMG/パナメリカーナグリルを採用 ・ ワイドなリアフェンダーと最高出力557psのGT Cを新たに追加 ・ エンジン出力の向上
車両価格 (税込)	メルセデスAMG GT： 16,900,000円 メルセデスAMG GT S： 20,000,000円 メルセデスAMG GT C： 22,190,000円
デリバリー 開始時期	—



一部改良 日産 GT-R/GT-R NISMO 2018年モデル	
発表・発売日	2017年11月16日 発売
概要	・ 「国土交通省認可 サッチャム欧州カテゴリII準拠 車両防盜システム」を全グレードで標準装備 ・ 「Apple CarPlay」に全グレードで対応
車両価格 (税込)	GT-R Pure edition： 10,230,840円 GT-R Black edition： 12,139,200円 GT-R Premium edition： 11,705,040円 GT-R Track edition engineered by nismo： 13,969,800円 GT-R NISMO： 18,700,200円
デリバリー 開始時期	—



ニューモデル ボルシェ カイエン	
発表・発売日	2017年12月16日 受注開始
概要	・ 第3世代となり、エンジンとシャシーを全面的に刷新 ・ 3チャンバーエアサスペンションを備えたアクティブシャシーシステムを採用 ・ 世界初のボルシェ サーフェス コーテッド ブレーキ (PSCB) を設定
車両価格 (税込)	カイエン： 9,760,000円 カイエンS： 12,880,000円 カイエンターボ： 18,550,000円
デリバリー 開始時期	—



限定車 ロールスロイス ベイサイド ドーン	
発表・発売日	2017年12月21日 発表
概要	・ 海をオマージュしたロールス・ロイス・モーター・カーズ横浜の特別仕様車 ・ クルーザーのような印象を与えるホワイトとブルーの内外装 ・ インテリアパネルにはヨットをイメージしたチーク材を採用
車両価格 (税込)	ロールスロイス ベイサイド ドーン： 43,470,000円
デリバリー 開始時期	—



一部改良 マセラティ 2018年モデル	
発表・発売日	2017年11月7日 発売
概要	・ ギブリは外観を大幅に改良し、新たなトリムオプションを導入 ・ レヴァンテは新たなトリムオプションを導入し、安全装備を拡充 ・ クアトロボルテは安全装備を拡充し、エンジン出力を向上
車両価格 (税込)	ギブリ： 9,530,000円～ レヴァンテ： 9,867,000円～ クアトロボルテ： 12,255,500円～
デリバリー 開始時期	—



限定車 レンジローバー スポーツ SOLIHULL	
発表・発売日	2017年12月27日 受注開始
概要	・ ベースは3.0L V6ターボディーゼルエンジン搭載の「HSE DYNAMIC」。限定15台 ・ ダークフィニッシュのヘッドランプ/リアテールランプを装備 ・ サテンブラックのミラーキャップ、22インチアロイホイールを装備
車両価格 (税込)	RANGE ROVER SPORT SOLIHULL： 12,300,000円
デリバリー 開始時期	—

MATERIALS

最近、ベントレーのウッドパネルに仲間入りしたのが「Liquid Amber」です。ベントレーにとって7番目となるウッドパネルで、最高級の素材から作られています。

このウッドパネルがベントレーのインテリアでも極めて稀なのは、ウッドパネルハンターの専門チームが世界中を飛び回り、非常に長い年月をかけて最高品質の素材を調達しているからです。

魅力的で現代的な Liquid Amber

Liquid Amberは、アメリカンレッドガムまたはアメリカンスイートガムの木を加工したものです。アメリカ南部にあるミシシッピ湿原の水分をたっぷり含んだ豊かな土壌でゆっくりと育つ木です。

この木の樹脂は、その香りからLiquid Amberと呼ばれています。ベントレーが使用するのは最高品質の木だけで、生育地の湿地に入ることが制限されているため、ウッドパネルを収穫できるのは年に2回だけなのです。

この素材には、温かみのある赤い色合いを維持しつつ、深く豊かな茶色の光沢を与えるため、数週間かかる自然の燻煙プロセスにかけます。その後、Liquid Amberの素材は英国のクルーに輸送され、ウッドショップへと運び込まれます。ここで、他の6種類のウッドパネルとともに、お客様の車両に使用できるものを選定する作業が行われるのです。



完璧の追求 – 最高級素材の調達

ベントレーが提供する7種類のウッドパネルは、カナダや中国などにいる専属のウッドパネルハンターによって調達されています。ベントレーは最高級の種から調達された最高級の材料のみを、車両のインテリアに使用します。例えば、Burr Walnutのウッドパネルに使用する20,000㎡ものウォールナット材を検品するため、1週間もの時間をかけることがあります。ベントレーは一般に、提供されるウッドパネルの30～70%を使用しません。全ての木材は、高密度で辺材は最小限のもの、なおかつ樹皮の成長や構造的な欠陥のないものでなければいけません。

それぞれの木材は0.6mmの厚さにスライスされ、生のウッドパネルは紫外線下での安定性と、木目に一貫性があるかどうか、厳格な試験に合格しなければなりません。ウッドパネルが車両に使用できるようになるまでに、このプロセスは少なくとも18カ月かかります。

ウッドパネルの先にあるもの

ラグジュアリーの新しい姿を提供するもう1つの新素材に、ベントレーのストーンベニアがあります。この革新的なインテリアの仕上げ方法は、2億年以上前に生成された岩石によって、ラグジュアリーで現代的な雰囲気を作り出します。これらの石材(カルサイト)は、インドのラージャスターン州とアンドラ・プラデーシュ州で人力で採掘されており、持続的に調達できることがわかっています。これらの石材はより大きな石から削り出され、グラスファイバーと特別な樹脂を使用して硬化されます。最後に、マリナーの職人らがフェイスパネルなどの形に成形して完成させます。





BETTER by DESIGN

ビスポーク&限定車の
プロダクトマネージャーが語る
マリナーによる
パーソナライゼーション



マリナーの世界では、どんなことも可能です。ビスポーク&限定車を担当するプロダクトマネージャーのジェイミー・スミス氏（以降JS）が、フライングスパーをどのようにして際立った存在にするかを語りました。

Q:マリナーはデザインのエキスパートらが集う社内の専門家集団です。リテラーがこの知識から得るメリットは何でしょうか？

JS: 私たちは、お客様やターゲットとなるオーディエンスに対し、標準仕様をはるかに上回る真のパーソナライズされたクルマを提供することができます。マリナーのデザインチームによって推奨されるものは、お客様のご要望や好みを正確に反映する理想的な手法です。標準仕様車を製造するラインとは全く異なる特注のソリューションを提供するこの能力は、リテラーがストックとして保有する車両を真に際立たせるものです。

Q: どれくらいのお客様がマリナーを通じてフライングスパーをパーソナライズされているのですか？

JS: ベントレーが販売するクルマの約1%が、マリナーによってパーソナライズされたフライングスパーです。この数字は少ないように感じられるかもしれませんが、リテラーには大きな利益をもたらすものです。



Q: なぜ、リテラーはマリナーの手によるフライングスパーを導入すべきなのでしょう？

JS: 私たちは、真のビスポークカーを作ることで、リテラーがショールームをユニークなものにする機会を提供できます。これが意味することは、リテラーが競争の中で際立った存在になり、ユニークなセールスポイントを提供し、お客様や見込み客の方々の目を引くことができるということです。

Q: フライングスパーのマリナーへのリクエストで最も多いのはどんなものがありますか？

JS: 私たちの経験では、リテラーはより明るいレザーカラーを求めることが多く、またそれ以上に勇気を出さなければいけないようなボディカラーによって、お客様の目を引こうとすることが多いですね。明るい色の要望は増えており、こういった車には人の足を止めてショールームへ引き入れる力があることがわかっています。

また、多くのリテラーからウッドパネルやカーボンファイバーパネルのバリエーションとして、さまざまなテクニカルな仕上げを要望される例も出てきました。これらのテクニカルな仕上げに関しては、卓越した能力があると自信を持っています。私たちはウッドパネルとカーボンファイバーを扱う数少ないカーブランドのひとつなのです。

Q: マリナーのタッチというのは、ボディカラーのように一目でわかるものだけでなく、さりげないものもあります。フライングスパーを目立たせる方法を模索しているリテラーに向けて、何か良い案はありませんか？

JS: 新しいマリナーデザインのカラーズプリットは、フライングスパーを際立たせる完璧なチョイスだと思います。これはパーソナルコミッションングガイド（※）にも出ていますので、ぜひ一読ください。それから、パーソナライズしたトレッドプレートも理想的なパーソナライズ要素です。例えば、トレッドプレートに「BENTLEY TOKYO」のようにリテラー名を入れると、お客様に対して「特別なことができる」というアピールが可能です。

Q: マリナーでできないことはありませんか？

JS: マリナーは純粋にお客様の個性を反映します。それはパフォーマンスに関するものではなく、パッション＝感情・情熱に関するものです。よって、パフォーマンスを向上させることは意図していません。マリナーがボディキットなどを作らないのは、こういった理由があるからなのです。



マリナーの「パーソナルコミッションングガイド」は、リテラーマーケティングニュースのサイト（英語）からダウンロードできます。

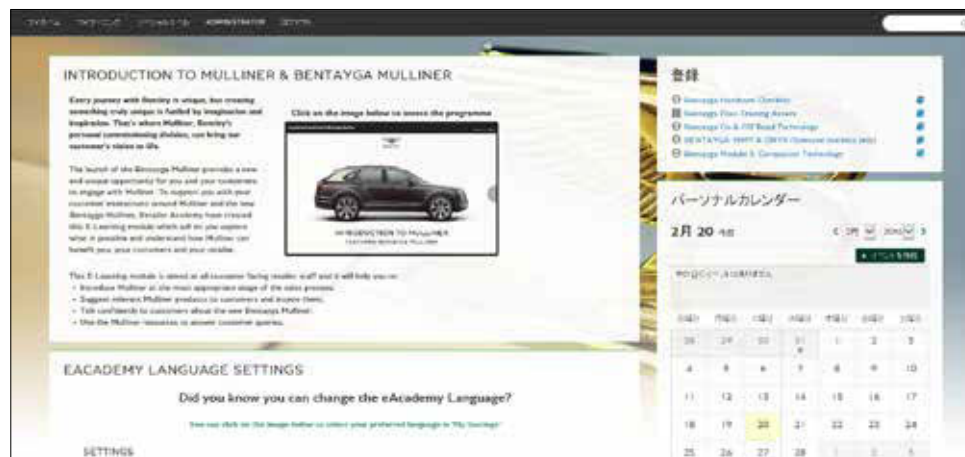
<http://retailer.bentley.co.uk/content/dmn/en/downloads/mulliner.html>

Academyの受講をお忘れなく

現在、ベントレーの製品とサービスのトレーニングの大部分は、クルー本社が提供するeAcademyモジュールを通じて学んでいただくスタイルとなっており、各参加者の自発的な受講が求められています。リテーラーの皆様におかれましては、通常業務でお忙しいとは思いますが、積極的に受講いただけますよう、お願い申し上げます。

特に、新たにベントレーのご担当となったスタッフや、新入社員に関しましては、過去のモジュールにさかのぼって学習いただくことを期待しております。

現在展開中の日本語のモジュールは次のとおりです。



- Bentayga Module 1: Market Segment Overview
- Bentayga Module 2: The Customer Landscape
- Bentayga Module 3: Competitor Technology
- BENTAYGA MODULE 4: THE BENTAYGA W12 17MY - PART 1
- BENTAYGA MODULE 4: THE BENTAYGA W12 17MY - PART 2
- MULLINERの紹介 BENTAYGA MULLINERに着目
- The Mulsanne 17MY & EWB
- Flying Spur 16MY – Japanese
- フライング スパー V8 S
- FLYING SPUR W12 S - スポーツ性を高めたFLYING SPUR
- CONTINENTAL GT 18MY - Part 1
- CONTINENTAL GT 18MY - Part 2



- Bentayga Module 5 – Japanese
- Bentayga Technical Module 2: Engine Management System and Engine Transmission
- ベントレー ベンティガ インフォテインメント システム
- ベントレー ベンティガ - シャーシ システム
- ベントレー ベンティガ - 電気系統
- Continental GT Air Suspension
- Continental GTC 2012 MY Update
- Continental GT Infotainment
- Continental GT the W Engine Concept
- Continental GT Vehicle Electrical Systems



※ 現在、19MY Bentayga V8のトレーニングモジュールを準備中です。準備が整いましたら、あらためてベントレー モーターズ ジャパンよりご案内いたします。

AWARD

EXP 12 Speed 6eがグッドデザイン賞を受賞



ベントレーが2017年3月に開催されたジュネーブモーターショーで発表したコンセプトカー「WXP 12 Speed 6 e」が、シカゴ・アテナイオン博物館（近代建築&デザイン）が主催するグッドデザイン賞を受賞しました。この賞は1950年から始まった世界最古のグッドデザイン賞で、最も権威ある賞として知られています。2017年末に世界を代表するデザイナーや建築家、ジャーナリストらがニューヨークとサンフランシスコに集い、過去12カ月に発表された製品など数千点から受賞作品を選びました。



シカゴ・アテナイオン博物館のChristian Narkiewicz-Laine館長は、「EXP 12 Speed 6 eは、高級感、デザイン、美と独創性という点においてラグジュアリー体験を提供するものとして、この賞を勝ち取りました。ラグジュアリー EVを新たなレベルに引き上げた存在です」などと評価のポイントについてコメント。ベントレー モーターズのデザインディレクターであるステファン・シーラフ氏は、「ベントレーはラグジュアリー EVというセグメントを定義しました。EVの未来においても、これまでベントレーがお客様に提供してきたラグジュアリーかつエフォートレス、エクスクルーシブ、エモーションアルといった要素を持つべきと考えています」などとコメントしています。

ベントレー モーターズが7年連続でトップエンプロイヤーに選出



ベントレー モーターズはこのほど、トップエンプロイヤーインスティテュートから「トップエンプロイヤー」に選出されました。選出されるのは7年連続で、ベントレーが行ってきた投資や、従業員の育成に対する姿勢、将来を見据えた才能の発掘、従業員の環境整備などが高く評価されました。

Astrid Fontaine取締役（人事、デジタル&IT担当）はこれを受け、「英国の優れた雇用者であるというステータスを維持できたことは、個々の従業員がプロ意識と向上心を持って献身的に働いてくれたことを反映したもの。ベントレーで働く全てのスタッフは、自分がすべきことに信じられないほどの情熱を傾け、ベントレーを最高の会社にしようとしています」などとコメントしました。

トップエンプロイヤーインスティテュートは毎年、労働環境の整備状況、継続的な採用プログラムと育成、全ての業務分野で才能を発揮できているか、などについて調査しています。このうち、例えばベントレーはすでに研修生や卒業見込みの学生、卒業生らを対象とした2018年の採用活動を開始しています。また、本社のあるクルーでは、将来はクルーエンジニアリング&デザイン工科大学の中心的な役割を担うことを見据えています。これは将来の雇用への道を模索する14～18歳の学生に対し、魅力的な教育を提供するものです。



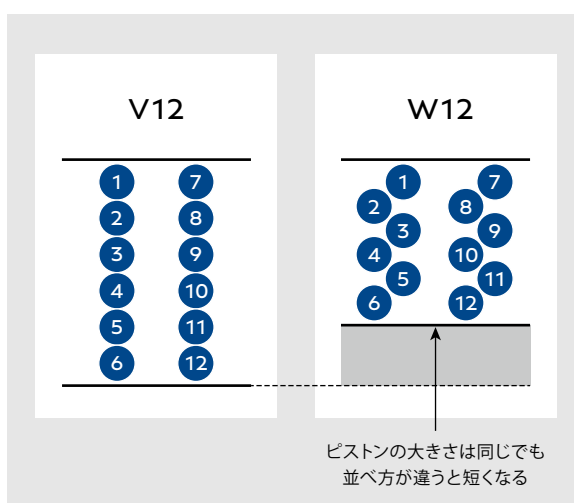
W12 エンジンの特徴と最新技術

最新モデルであるコンチネンタルGTに搭載されるのは6リッターのW12 TSIエンジンです。
世界最先端の12気筒エンジンであるW12 TSIは、どのような特長とメリットがあるのでしょうか。
採用された最新技術と共に、その内容を紹介します。



W12 エンジンとは

エンジンには、気筒数や、そのレイアウトによって、さまざまな種類が存在します。そうした中で、最もパワフルでありながらスムーズな回転フィーリングを得られると、最上級のプレミアムカーにこそ採用されるのが12気筒エンジンです。そんな12気筒エンジンのスタンダードとも呼べるのが、直列6気筒エンジンを2列に配したV12エンジンでしょう。エンジンをクランクシャフトの先の方から見たときに、シリンダーの配列がVの形に見えるのが名前の由来となります。しかし、ベントレーはコンチネンタルGTをはじめ、フライングスパーやベンティガには、W12エンジンを採用しています。これは一般的なV12とはシリンダーレイアウトが異なるベントレーならではのもの。言ってみれば、2つのV6エンジンをひとつのクランクシャフトにつなげて12気筒にしたようなレイアウトです。2つのV型エンジンを使うことからW型と呼ばれています。W12エンジンは、通常のV12エンジンよりも全長を短くできることが特徴です。コンチネンタルGTに搭載される最新のW12 TSIは、同クラスのV12エンジンよりも全長が24%も短くなっています。



W12 TSIに採用された最新技術

新しいコンチネンタルGTに搭載されるW12 TSIは、W12エンジンの中でも最も進化したエンジンとなります。最新のソフトウェアを利用しており、毎秒3億回もの演算を実施。強烈なパワーとトルクを生み出します。また、高圧で燃焼室内に直接燃料を送りこむ直噴方式と、低圧で燃焼室前のポート部分に燃料を噴射する方式を組み合わせていることも特徴のひとつ。2種類の燃料噴射方法を組み合わせることで、大幅な燃費向上や微粒子（ススなど）排出の低減、出力とトルクの最適化などが実現します。また、一定の条件下ではエンジンの半分の気筒を停止させる可変シリンダーシステムも採用。6気筒エンジンとして稼働するため、燃費が大きく向上します。さらに停止中や停車しそうに速度が落ちたときにエンジンを停止させるスタートストップテクノロジーも採用。惰性走行も可能な、この技術も燃費向上に貢献します。こうした最新技術の採用によりコンチネンタルGTのW12 TSIは、先代モデルよりもCO2排出量を16%改善した278g/kmに。ユーロ6のフェーズ2とUS ULEV125 (EV3) の基準値をクリアするほど排気ガスもクリーンなものとなっています。

効率化やクリーン化だけでなく、エキサイティングなスピードもW12 STIの魅力のひとつ。SPORTローンチモードにすれば、システムがクラッチ圧を調整し、簡単に最大の加速を実現します。また、トルクコンバータに代わって採用されたデュアルマスフライホイールは、ドライブトレインの振動を抑制し、スムーズで気持ちの良い走りを実現します。



W12 STIは、エンジン燃焼室内に燃料を直接送り込む直噴方式と、その手前に噴射するポート噴射方式の2種類の燃料噴射方式を併用。ススやスラッジの発生を抑えつつ、排気ガスのクリーン化やハイパワー化、効率化などを実現する。

SPEC

エンジン：	W12 STI
最高出力：	635馬力
最大トルク：	900Nm
0-100km/h加速：	3.7秒
最高速度：	333km/h

メリット

- エンジン全長が短いため車体のレイアウトの自由度が高い。
- エンジンが小さくできるので、最適前後重量バランスを実現しやすい。
- エンジンの短さを活かして、室内空間を大きくできる。

デメリット

- ヘッド回りなどの構造が複雑になる。
- 吸排気系の取り回しに制限がある。